

淡路島の繁殖和牛農家Y畜産様のお話

Y畜産様では和牛繁殖を始めて25年になります。以前はお父様が酪農をされていたのですが、お父様の怪我をきっかけに、1年間市場で和牛の勉強をされ就農されたそうです。

アドヘルスを使い始めたきっかけは？

『10年位前に開業獣医師の紹介と講習会に参加したことをきっかけに使い始めました。』

どのようなご使用方法ですか？

『分娩後20日目から1日50g 60日間給与しています。淡路ではランクの高い精液は1分娩で1回しか配給されず、2回目以降の種付ではランクの下がった精液が配給されます。』

そのため初回の種付でより確実に受胎するようアドヘルスを予防的に使用しています。高ランクの精液で生産できているので、素牛販売価格は平均60万以上を確保しています。』



県共出品予定の牛

経営方針を教えてください。

『トンビはタカを産まないという考えのもと、能力の高い母牛を揃えてきました。そのために購買者から肥育結果を聞いたり、積極的に共進会へ参加して母牛の選抜をしています。選抜の目安は体長が長く、乳が良く出て哺乳能力が高いことで、登録点数は82~85点で揃えています。』

良い母牛を揃えても繁殖成績が悪ければ脂肪が付き、良い子牛は生まれません。そのため予防を中心とした管理を心掛けています。現在、母牛は15頭ですが、来年からは仕事に余裕ができるので、徐々に30頭まで増頭する予定です。』

授精料		種雄牛(父牛)近交係数	雌条件	備考
Aランク 10,000	第2安鶴土井(安美土井)	21.8%	全共・県共出品牛	1頭あたりそれぞれの種雄牛を2本まで種付け出来ます。
	福芳土井(谷福土井)	20.6%	県育種基礎雌牛	
	丸宮土井(鶴丸土井)	20.1%	高等登録牛	
	芳悠土井(福芳土井)	26.2%	登録得点82.5点以上の牛	
授精料	種雄牛(父牛)近交係数	種雄牛(父牛)近交係数	雌条件	1頭あたりそれぞれの種雄牛を1本種付け出来ず。
	福広土井(谷福土井)	22.1%	芳山土井(福芳土井)	

JAあわじ 授精条件

ご使用頂いた感想は？

『特に5産目以降の牛で発情、出血が強くなったと感じています。』

うちでは通常、分娩後40日目頃の発情は種付せずに60~80日目の発情で種付をしているのですが、昨年は母牛16頭に対し種付回数は17回でした。ほぼ毎年1年1産を達成しています。』

岩手県の繁殖和牛農家F様(母牛18頭)のお話

広くゆったりとした牛舎に十分な敷き藁を敷き、快適な環境で牛を飼育されているF様。

F様は分娩前後の管理に特に気を遣っています。肥り過ぎないように注意し、発情がなるべく早く来るような飼育を心掛けているそうです。



ゆったりとした牛舎

🐷 アドヘルスを使い始めたきっかけは？

『以前から製品の存在は知っていましたが、詳しい内容は知らなかったので、改めて営業担当の方にしっかりと説明をしていただきました。ホルモン剤を使わずに年1産を目標としているこちらの考えと合っていたこと、そして長年の実績があるという点が良さそうだと思います。』

🐷 どのようなご使用方法ですか？

『分娩1ヶ月前から妊鑑まで1日50g給与してます。分娩前の管理が、子牛にも良い影響があると思います。また、もしも1回目の授精で受胎しなかった場合にも妊鑑まで給与しておくことで、次の授精でのロスが無くなるかと考えています。』



🐷 ご使用方法頂いた感想は？

『発情が強くなりました。具体的にはスタンディングが強くなり隣の牛にガンガン乗っています。また、後産がすぐ落ちるようになったと感じています。アドヘルスを使用する前は、獣医さんに繁殖障害の治療をしていただきましたが、今ではほとんどありません。また、分娩前後に給与している影響だと思いますが、子牛の下痢も少なくなったと感じています。』

徳島の酪農家H農場様のお話

H農場様は酪農経営を始めて約50年になる大ベテランの農場です。現在成牛30頭、育成牛3頭を飼育されていて、北海道より3～4産の経産妊娠牛を導入しています。近隣の数多くの酪農家が離農するなかで健全な酪農経営を続けていらっしゃいます。



都市化された住宅地の中での牛舎

アドヘルスを使い始めたきっかけは？

『もう30年以上も前の事なので曖昧な記憶ですが、自らも酪農家である全薬さんの営業担当の方に勧められ、当時、診療・指導をして下さっていた乳業メーカーの獣医師に相談して使い始めました。』



どのようなご使用方法ですか？

『30年来使用していますので、給与方法は色々試みましたが、分娩後から21日間だけ給与してみたり、給与量を50gにしてみたりしましたが、現在はコスト面を考えて、分娩後40～50日たっても発情がはっきりしない牛に100gを30日間給与しています。』

ご使用頂いた感想は？

『発情が弱い牛に給与すると発情がはっきりします。結果的に受胎率も向上しているようです。農場の成績は、その年の夏場の気候にもよりますが、分娩間隔はおよそ14ヵ月、平均乳量は9,000kgくらいです。』

『正直な所、すべての牛に効果があるわけではありませんが、繁殖の重要性を考え使用を続けています。』

H農場様ではビタヘルス散もご使用頂いております。肝臓のケアに分娩前1ヵ月と分娩後1ヶ月の2ヵ月間、1日50g給与されています。



アドヘルス

岩手のO農場様のお話

O農場様は畜産経営を始めて40年以上になります。現在和牛母牛を39頭、F1母牛を8頭、育成牛を6頭飼育されています。長年和牛繁殖と採卵に取り組まれており、アドヘルスだけでなくビタヘルスもご使用いただいております。



風通しの良い牛舎



稲やデントコーンなどを栽培

🐷 アドヘルスを使い始めたきっかけは？

『私自身が稲をやっているため餌がわら主体です。加えて繋ぎ飼いのため運動不足になりがちで繁殖成績に課題がありました。そこで添加剤を探していたところアドヘルスの紹介を受け、使い始めました。今年で使用歴は27年になり、現在は飼料効率改善のためにビタヘルスも併用しています。』



牛舎内の様子

🐷 どのようなご使用目的ですか？

『当初は繁殖成績の改善に使い始めましたが、平成5年ごろから採卵にも取り組んでおり現在は両方で使っております。アドヘルス、ビタヘルスの他にアミノ酸や酵母製剤など複数の添加剤を目的に応じて使い分けています。』

🐷 ご使用頂いた感想は？

『AIは3回以内に受胎しています。採卵では総採卵数、凍結向け卵の数共に順調に取れていると感じています。特に23年6月は1頭から86個採卵してそのうち69個がランク1~2と認定され、これまでで最も多く受精卵が取れました。また移植用F1は、ここ8年間程は全頭1回の移植で受胎し、分娩まで出来ていて、今後も使いたいと考えています。』

2023年6月1日		実施日	採卵者	種別	種別	
採卵終了時間	9:45		OK(2)	福之鶴	青紙産-特	
黄体数	L	R	10↑	10↑	生産者	
卵胞数	L	R			ランク/ステージ	
回収卵数			86		4	5
ランク1~2			69		10	
ランク2.5			0		15	9
ランク3			0		20	3
変性卵数			15		25	
未受精卵数			2		30	
凍結保存	個数: 66	担当:		備考:	新鮮販売	

採卵結果

🐷 経営方針を教えてください。

『基本的に分娩→採卵→種付け→分娩と、子牛取りの合間で採卵を行うという意識で取組んでいます。和牛飼いとして市場出荷と牛群の改善のためにもまずは子牛を取ること、子牛も母牛も病気にさせないことを重視しています。また、牛の状態をみて添加剤を上手く使い分けるようにしています。昨今は特に餌や燃料の高騰もあるため、添加剤の値段を高いと感じることもありますが、自分の牛なので数百円かけてでも良い子牛を生産したいという思いから給与しています。』

O農場様では以下のように製品を給与いただいております。

- [アドヘルス] AI・移植の際は分娩後10日目~妊鑑まで50g/日
採卵の際は分娩後10日目~採卵日まで100g/日
- [ビタヘルス] 分娩前1か月前から受胎まで10g/日
子牛の育成に5g/日



【製造元】 株式会社 牛越生理学研究所
千葉県佐倉市石川601-1